

JAUW 茨城支部だより 2023年度-2号

2023年10月8日一般社団法人 大学女性協会(JAUW)茨城支部 発行

日本が亜熱帯地方になってしまったような酷暑続きの夏、皆様いかがお過ごしでしたか？我が家でもこの夏、大事件発生です。二階窓のシャッターに巣くっていたのは何と蝙蝠。森の洞窟に生息しているはずの動物が郊外の団地にまで出没するのは！異常気象のなせる動物移動でしょうか？専門家のアドバイスによれば、シャッターは怠らず毎日開閉するようにとのことです。



コロナ禍一段落し、様々な活動がリアルに再開されてきました。私が参加した活動を以下に列挙してみました。

- ◇6月4日は、大学の同窓会・桜蔭会茨城支部総会に出席し参加された20名の同窓生と交流。
- ◇6月25日、埼玉県大宮東中の教え子8名が押しかけミニ同窓会。久しぶりに偕楽園を散策しホテルレイクビューで会食懇談する。彼らも還暦過ぎて医師や会計士など立派な大人になり50年ぶりの再会は懐かしい限り。
- ◇7月13日、国際交流・協力ネットワーク会議、全大会に出席する。瀬谷ルミ子氏の基調講演を拝聴する。演題は「我々は進化する争いにごどう対峙するか？～戦争と平和の最前線からの報告～」彼女は、認定NPO 法人REAL s 理事長JCCPM株式会社取締役。紛争解決の担い手として女性たちを育成しながら、民族紛争やテロを未然に防ぐ取り組みをしている。「世界が尊敬する日本人25人」や世界に影響を与えた10人の女性に選出されている。危険を伴う地域で一人の日本女性が、争いの芽を未然に防ぎ戦争回避活動をしている報告に感銘する。
- ◇9月9日10時から12時、我が支部主催の水戸市男女平等参画推進月間市民企画講座を開催する。講師の高橋美紀さんは、ITアドバイザーとして県内外で企業や事業者への販路拡大など経営支援をされ、17の名刺を持って縦横無尽に活躍中の我が支部の若手の会員。彼女の口癖は「IT社会に乗り遅れるな！」ということで、タイトルは「女性の視点で快適生活～IT社会に乗り遅れないために～」、会員9名友人5名の14名がスマホ実習講座に集中して取り組む。
- ◇9月9日2時から4時、本部主催第15回のJカフェで支部会員でもある富田学長の「ポストコロナ時代の国際教育」をオンラインで参加する。質疑応答の中で、若い世代が日本史必修ではなく選択制のため、第二次大戦や冷戦時代など知らないということが話題となった。日本史、特に我が国の現代史を学ぶことは国際社会に生きていく必須条件なのではないかと感じた。



◇9月17日 水戸市ヒューマンライフシンポジウム、池上 彰氏の「SDGsから日本の未来を見る」基調講演と大学生とのディスカッション「若者はなぜ怒らない？」をオンラインで参加する。AI時代に生きる学生たちの漠然とした将来に対する不安に対し、AIは過去の知識蓄積にしか過ぎず、未来は君たちが自ら体験して考え、答えを出していくのですという力強いメッセージに納得する。

支部長 加藤光子

§ 女性の視点で快適生活 ～IT 社会に乗り遅れないために～

ネット時代に、私たちの世代が乗り遅れないようにとの講座を開いて頂き、ありがとうございました。講師の方は、素晴らしい経歴の方で、大いに刺激になりました。いつまでも、好奇心を持つことが、とても大事であること、そして、いろいろなことに挑戦して、もっともっと自分の可能性を開いていけるようにしたいと思いました。年齢に関係なく、若々しい方は、新しいことに興味を持って、とにかくチャレンジしていますね。私も、これからの長い人生の中で、今日が一番若い日との思いで、うまくいなくてもくさらずに、好奇心を持っていきたいと思えます。ありがとうございました。

友人 関根 瑞穂 さん



先日の高橋先生の講座大変勉強になりました。ドコモスマホ教室での18回の参加では聞けなかった事まで良く分かりました(iPhone と Android の違い等)すぐに役立つ事も教えて下さり早速友人とラインも繋がりました。スマホを知り尽くされている先生が第三者の立場から語られることに胸にスーツと入って行きました。もっと多くの方にお声かけすれば良かったと反省しています。本当にありがとうございました

友人 T F さん

友人 T F さん

先の講座で良かった事は皆さん同じだと思いますが Android と iPhone の違いを丁寧に教えてくれた事です。IT については仕組みが良く分からずになんとなくて使っていました。ところがスマホの記号一つ一つにこんなにもお役目があるという事が分かりました。基礎をしっかりと教えてもらわないと分かったふり、知らなくても困らないから!そういう生き方はしたくないのでまた基礎を教えてください😊

(浅野 秀子記)



スマホ講座ということで、興味津々で参加しました。講師の高橋美紀さん(以下「高橋美紀さん」)は、はきはきとした明快な口調で解りやすくスマホへの理解が深まりました。話の始めに、「あなたのスマホの種類は何ですか」と問いかけがあり、何で種類を聞くのかなと思いました。スマホの種類には iPhone と Android があり、iPhone はアップル社が製造している商品のみで、iPhone のシリーズであれば

操作方法は概ね同じセキュリティ面も一社なので安心、Android はさまざまなメーカーが製造しているので、メーカーごとに操作方法やセキュリティ面も異なるという説明があり、問いかけを理解しました。私は、スマホの種類についての基本も知らずに使っていたことを知り愕然としました。基本の基を知っていれば、ガラケーからスマホに乗り換える時 iPhone にしただろうと今更ながら反省です。高橋美紀さんのスマホの説明から、スマホは電話やメールだけの道具でなく他者とコミュニケーションをとったり、知りたいことをネットで検索したり、その他諸々家に居ながら生活を便利に、より豊かに世界を広げてくれるツールであることを確認できました。

実践編では、LINE の操作について学びました。QR コードの開き方、お互いの QR コードを読み取ることで友だちになる方法を実際にやってみると意外と簡単にできることがわかり、使ってみることができることへの近道だと実感しました。近くの参加者と学んだ友だちになる方法をやってみて、できた！と大喜び。繰り返し使うことで身につけることができ、身につけると忘れないと思います。



私の知り合いが、施設で生活することになった 99 歳の祖母とのつながりを保つためにスマホを持たせた、祖母もこの年にしてスマホデビューしたと言っていました。スマホの使い方を図と文字で示したカードを作成し持たせてあるのでそのカードを見ながら使えているとのことです。最近の新聞記事に「V チューバーおばあちゃん」の記事がありました。V チューバーの H さんは 85 歳だそうです。プロデュースするのはお孫さん。H さんは今が一番幸せと記事に書いてありました。

IT 社会がどんどん進んでいる今、いくつになっても知りたい、新しい機器も使ってみたいという前向きの気持ちが大切だと講座を聴く中で強く感じました。知らないと躊躇してしまい内向きになってしまいがちですが、知ることで、使ってみることで、世界は開けることを体験しました。基本をしっかり身につけ、便利なスマホを楽しく、生活を楽にするためにもっともっとこの講座を続けて欲しいと希望します！！

(安藤 隆子記)



§ 第 15 回 J カフェの感想



9月9日（日）に実施された JAUW 生涯学習委員会主催の第 15 回 J カフェ（ZOOM）のテーマは「ポストコロナ時代の国際教育～今、大学に何が求められているのか～」、講師は常磐大学・短期大学学長であり当協会茨城支部の会員でもある富田敬子さんの講演でした。国連に長らく勤務し、世界の人たちと仕事をしてきた国際人としての富田学長の講義は、大変有意義で学ぶことがたくさんありました。事例を交えての話は胸にストーンと落ちました。

- 国際社会から見た日本は、安全、礼儀正しく、仕事熱心
- しかし集団としての統一性を好む・国際政治、外交問題への関心が希薄
- アメリカ、中国。韓国などへの関心が中心・偏った”外国・外国人”理解・首都への一極集中（東京至上主義）
- 日本の学生は、発信力、オリジナリティ、自主性、歴史認識が弱い。特に富田学長が強調したのは、**歴史認識**についてです。「日本の近代史を知ること、国際化のためには近代史をしっかりと認識することが重要」
- 高等教育の国際化は、留学生移動の促進と、英語による教育研究活動展開が大きな柱に
- Outbound 留学する日本人学生の数は、2004 年をピークに漸減、コロナ禍拡大以来、日本人学生の留学は激減、2020 年は 42,709 人
- Inbound 2008 年、2020 年までに外国人留学生を 300,000 人受け入れるとして設定 2019 年には目標を達成（注：日本後を学ぶ外国人学生を含む）外国籍の大学生の数だけでも 228,400 人に、新型コロナウイルスの感染拡大以来、外国人留学生の数は激減、2022 年の外国籍大学生の数は 181,741 人
- 教育未来創造会議による第二次提案・・・コロナ後のグローバル社会を見据えた、新しい人的投資を高等教育レベルでの人的交流を、より強固に促進。日本人学生の派遣を 203 年までに 50 万人！外国人留学生を 2033 年までに 40 万人！
- 教育国際化に向けた具体的方策として、ITC 等を活用した国際的な教育交流の拡大、バーチャル交流空間の創出、COIL（国際協働学習）・教育プログラムの国際化（外国語授業科目の増加）
- 外国人に対する日本語教育の質的向上（体系化されていない）
- 国際連携教育課程制度（ジョイント・ディグリー）の推進
 - ※ジョイント・ディグリー 大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が終了した際に、当該連携する複数の大学が共同で単一の学位を授与するもの
- 学事歴、修業年限の柔軟化・産学連携による就職支援の強化
- コロナ禍により、学生の国際流動性は著しく低下している。一方移動を伴わない国際交流や学習は定着しつつある。
- グローバル化、ダイバーシティの深化により、多様な価値観をもつグローバル人材の教育はこれまで以上に求められていく
- それぞれの大学が、ポストコロナ時代にふさわしい新たな教育の国際化を再構築する時

富田学長の講義を拝聴し、日本人として生きてきた自分は？と考えさせられました。外国の方とほとんど接しない生活の中でもグローバル化、多様性、ダイバーシティという言葉は多く耳にするようになりました。言葉としては理解していても実態としては理解していないということが分かりました。グローバル化する社会で生きていく若者に対し、近代史の歴史認識も含め教育の在り方が問われていると思います。貴重なお話をありがとうございました。

(安藤 隆子記)

§ 2年越しで槍ヶ岳の頂上へ



今夏7月、山登りのツアーを通して知り合った仲間たち5人（平均年齢68歳）と2年越しで槍ヶ岳の頂上に立つことができました。私が槍ヶ岳に登ろうという大それた思いを持ったのは、誰が見ても槍ヶ岳とわかるその穂先を一昨年登った常念岳から見たからです。その凜としている姿に魅入られてしまいました。

それからは、近郊の山や南アルプスの赤岳などのトレーニング登山をして去年の夏に挑戦しました。しかし、残念ながら悪天候のためガイドの判断で穂先の登頂は諦めざるを得ませんでした。そこで今年は、天気の良いことを確認した上で上高地に向かい、無事穂先の頂上に立つことができました。頂上からの眺めは360度それはそれは素晴らしいものでした。天気にも恵まれ、気の置けない仲間たちと楽しく、時には真剣に登山道を歩き最高の山行となりました。翌8月には奥穂高岳にも登ることもできま

した。

最後に、健康な体と経済的に自立している自分に感謝です。そして、気持ちよく送り出してくれる夫にも少し感謝です。

(登山にはまっている飯田でした)



小泉光子さん投稿の句

しなやかはまた強さなり風の萩
シャガールの空飛ぶ女秋の雲
天高しはしゃぐ声満つ下校門
爽やかや敬語使ふ異邦人
邂逅といふひとときや露光る



◆お知らせ◆

第2回IT講座

講師：高橋 美紀 氏
日時：11月26日
13:30~15:30
場所：生涯学習センター

第16回Jカフェ

11月11日(土) 14:00~16:00 Zoomを使ったオンライン開催
※詳細は別添のチラシをご覧ください

\$ 編集後記

暑い！暑い！長い夏がやっとすぎ、秋の兆しが見えてきた今日この頃、皆様お元気にお過ごしでしょうか？今年の夏は花にもかなり過酷だったようで、いくら水をやっても枯れてしまいました。毎年楽しみに育てている夕顔も蕾はつけるものの咲き切らずに散ってしまい、種も取れませんでした。
(夢見る昔少女)

